

アンテナ

2021.2.27

人生、楽しいこと、うれしいことばかりだといいのかもしれないが、現実にはそうはいかない。苦しいこと、辛いこと、悲しいことが次から次へとやってくる。「人生苦あれば苦あり」とでも言えそうなほどである。

人には出会いがある。だが、本人にアンテナが立っていないと、スイッチが入っていないと、出会いが出会いではなくなってしまう。本人の心が開かれているかが重要である。本人に求める心があるかどうかである。

人は、悲しみや苦しみのおかげで求める心が起きるという方もいる。悲しみや苦しみのおかげでアンテナが立つのである。アンテナが立っていなければ、人の言葉は耳に届かない。いい出会いにも恵まれない。

アンテナが立つかどうかはむずかしい問題である。高校生のうちはどうであろう。反抗期の真っ只中だとしたらどうだろうか。素直に人の話を聞き、受け入れることができるだろうか。20代ではどうであろう。いきがったり、調子に乗ったりしているときはどうだろうか。

では、年齢を重ねてくれば自然とアンテナが立つのであろうか。今度は、プライドや経験、自信が邪魔をするかもしれない。「今まで自分はこうやってきた」という自負が、謙虚さや素直さを遠ざけてしまうかもしれない。

そう考えると、アンテナを立てることは容易なことではないように思えてくる。実は、苦しいとき、悲しいとき、辛いときがチャンスなのである。苦しいとき、辛いときほど、成長できるチャンスである。成長するときにはアンテナも立っているものである。自然と人との出会いに恵まれ、自分の人生、生き方に影響を与えるような“言葉”にも出会える。

一番のポイントは、謙虚さだろうか。プライドをもつことはわるいことではない。自信をもつのはいいが、過信はいけない。経験がものをいうことがあるが、経験が判断を迷わすこともある。プライド、自信、経験がつけばつくほど、より謙虚さを身につけていけたら理想的である。ポジションが上がれば、より謙虚にである。

教員をやっていると、児童生徒に、どのようにしたらスイッチが入るのだろうかと考えることがある。アンテナを立てるにはどうすればいいのかと思案に暮れることがある。子どもたちの心に火をつけられるかどうかである。ウィリアム・アーサー・ワードの言葉が思い出される。

普通の教師は、言わなければならないことを喋る。

良い教師は、わかりやすいように解説する。

優れた教師は、自らやってみせる。

そして、本当に偉大な教師というのは生徒の心に火をつける

苦しみや悲しみは、アンテナを立てなさいという天からの贈り物だと考えてみる。辛いことがあっても、出会いが救いの手を差し伸べてくれる。このことがわかっているならば、何とかやっつけていけるのではなからうか。